書記形式の言語接触による文法化の特徴

－日本語における漢文訓読からもたらした機能辞の生産－

胡 シン・劉 洪岩

キーワード：言語接触による文法化　漢文訓読　文法模造　借用　書記言語

これまでの研究では、文法化は一般的に「語用論的推論」に働きかけられた言語内部の変化とされるが、最近「接触による文法化」(contact-induced grammaticalization)が文法化の一つの重要な下位類型として扱われる論もある。言語接触による文法化研究では、「接触」が模造言語の文法化の産生、加速の誘因になれるとされる(Heine＆Kuteva 2005)。

漢文訓読は漢字文化圏の特有の現象である一方、他のグロッシング現象と同様に、書記形式の言語接触としての普遍的な特徴をもつ(Loveday1996:37；Whitman2011:95)。漢文訓読にもたらした日本語の機能辞の生産は従来の「日本語体系内の文法化」と「訓読語法の借用」の二説よりも、「言語接触による文法化」の原理で説明し得ると考えられる。

漢文訓読のもたらした機能辞の生産を例として、本研究では脱意味化（desemanticization）、脱範疇化（decategorialization）、機能拡張（extension）の三つの変容要素の面で書記形式の言語接触による文法化の特徴を説明する。

①脱意味化：漢文における内容語の意味拡張に制限される。

例：*所：場所名詞>名詞化辞>>トコロ>名詞化辞*

處：場所名詞>時間名詞>状況接続>>トコロ>接続助詞

相：相互義>ゼロ>>アヒ：動詞>接頭辞

再読字（未：時間副詞＋Neg>>イマダ：時間副詞>時間副詞＋Neg）など

②脱範疇化：異なった言語類型の影響によって脱範疇の道筋の差異が見える

例：*動詞から文法化してきた後置詞の脱範疇化*

完全動詞＞助動詞＞動詞性接語（アヘテ、キハメテなど）

完全動詞＞副詞＞接続詞／後置詞（ナラビニ、ヨリテなど）

③拡張：接触言語における文法項目の統語環境の影響

例：*是：指示代名詞>繋辞>>コレ：指示代名詞>再帰的用法*

為：軽動詞>受動動作主提示>>タメニ：軽動詞>受動動作主提示

着：動詞>完了標識>>ツク：動詞>完了標識　など

このように、言語接触は文法化の重要な動機付けと考えられる。結論として、漢文訓読のような書記形式の言語接触は日本語の一部の機能辞の生産を促すのは可能であると考えている。この過程に、日本語文法の骨格部分が影響されず、日本語の文法体系に適応する立場にある漢語が「借用⇒模造⇒文法化」のような道筋で、日本語化まで辿りつく。

参考文献

Heine, Bernd, and Kuteva, Tania. 2005. *Language contact and grammatical change*: Cambridge University Press.

Loveday, Leo. 1996. *Language contact in Japan : a socio-linguistic history*: Clarendon Press; Oxford University Press.

Whitman, John. 2011. "The Ubiquity of the Gloss." *Scripta v2*: 95-121.

陳, 君慧. 2005. "文法化と借用 ： 日本語における動詞の中止形を含んだ後置詞を例に" *日本語の研究* 1: 123-138